



# お元気に過ごされているお年寄り紹介



① 荻谷くに  
② 松本町1-178  
③ 明治37年11月  
(98才)  
④ 2名・5名・8名  
⑤ すきやき、  
甘い物はたべない  
散歩をよくする



① 奥村佐賀見  
② 上戸町5-139  
③ 明治44年8月  
(91才)  
④ 4名・8名・11名  
⑤ 好き嫌いはなし  
散歩と体操  
詩吟をしていた



① 丹羽常道  
② 上中屋町1-280  
③ 明治41年2月  
(95才)  
④ 4名・7名・4名  
⑤ 野菜を中心とした食べ物  
ビール少々  
散歩と読書  
信念をもって



① 伊藤萩衛  
② 大佐野町2-2  
③ 明治45年4月  
(91才)  
④ 1名・2名・4名  
⑤ 野菜を中心、養命酒  
散歩・旅行・詩吟  
屋のみのもんのおもい  
つきりテレビよく見ます



① 小島かつ  
② 下中屋町2-21  
③ 明治44年2月  
(91才)  
④ 4名・5名・1名  
⑤ 力ニと野菜  
日本舞踊とカラオケ  
無心、無欲



① 松尾達二  
② 神置町3-52  
③ 明治44年9月  
(91才)  
④ 4名・7名・9名  
⑤ 好き嫌いはなし  
寝眠(毎朝も毎日)をとる  
農作業  
読書(文芸春秋)

※ ① 氏名 ② 住所 ③ 生年月日 ④ 子供・孫・ひ孫 ⑤ 好物・健康法・趣味モットー

## 学校に出て歩いてみましよう

民生委員児童委員 松尾芳樹



This is my mother. She is 35.  
She likes strawberry. Her name  
is Hanako. What is her happy?  
小学生が、KET・アマンダー・トンプソン(カナダ)さんと、友達どうしと何か写真を手に、会話がはずんでいる。

稻羽西小の子が、こんなにも英語を使い楽しく会話をしている。

誰とでもオープンにつきあって、心の広いフレンドリーな姿に驚き、頼もししく思った。

数年前から始まった「総合的な学習」の時間に英語、パソコン、そして福祉《三年 うさぎ、四年 A.L.缶と福祉、五年 米作りと国語学習 六年 つづじ苑との交流》と学んでいるとのこと。

皆さんも学校に伺って『ねばり強くやりぬく子、に向け、着実に伸びている姿を直接みていただけたら…と思った。

少子・高齢化の進行は、私たちの身近なところでも感じているのですが、高齢化率は今年四月一日現在において十九・六%と約五人に一人が六十五才以上の高齢者ということになります(市内においても一番高齢化率が高い・全国十八・九%・各務原市十五・七%)。しかし、高齢化がいざ進んでも、皆さんのがお互いにお元気でいきいきと過ごされています。この「コーナー」では、中屋地域にすんでいるお元気なお年寄りを紹介します。

少子・高齢化の進行は、私たちの身近なところでも感じているのですが、高齢化率は今年四月一日現在において十九・六%と約五人に一人が六十五才以上の高齢者ということになります(市内においても一番高齢化率が高い・全国十八・九%・各務原市十五・七%)。しかし、高齢化がいざ進んでも、皆さんのがお互いにお元気でいきいきと過ごされています。この「コーナー」では、中屋地域にすんでいるお元気なお年寄りを紹介します。



私たちにはアフリカの人たちにお米を送るために田植えをしました。まず、アフリカのことについてよく調べました。調べた結果、アフリカでは七秒に一人の子どもたちが亡くなっていることが分かり、とてもショックでした。いつも私はアフリカの人たちを助けたいと思い、がんばりました。

いよいよ、アフリカの人たちを助けた

社協だより



# な か や



第17号  
平成16年3月15日  
編集・発行  
各務原市社会福祉協議会  
中屋支部

地域の皆様のお力とお心で作つて  
いたいた、学校ビオトープ「生命  
の森」は今、子どもたちの大好きな  
スポットとなつています。

登校時にまつすぐビオトープへよ  
つてから来る子、休み時間の度にビ  
オトープを散策する子などがいます。

あるとき川のこつち側の子が向こ  
う側の子に向かつて  
「ハクウンボクまでね。」

と言つています。何のことかと思つ  
たら、鬼ごっこ逃げる範囲を示し  
ていたのです。木の名札がこんな使

われ方、親しみ方をしようとはと驚  
いたものです。  
たくさんの木を植えてくださった  
松尾様は言われる。

「時でもない時に、木は根っこをジ  
ヨキジョキに切られ違った環境に植  
えられた。人間で言えば大手術を  
してベットに横たわっているような  
ものです。木の根元を踏みつけるこ  
とは、そのベットに上つてどんどん  
暴れるようなものです。」

木を愛する人だからこそ、こんな  
わかり易い木の立場に立つたお話を  
されるのだと感じました。またこう  
も言われます。

「木の剪定は、花を咲かせ実をなら  
せてこそ木ということを第一に考え  
たいです。」

たくさんの植物を植えてくださった  
小島様も言われる。

「シデコブシは枝の先に花をつける  
のです。あんなに剪定してしまっては、  
今年は花をつけないよ。」

「地域の植物博士」のおかげで、私  
自身赤面したり、勉強したりの日々  
です。学校ビオトープが縁で、「地  
域の博士」が学校に力を貸していた  
だけれど、ありがたいことだと思って

## ビオトープ「生命の森」

六年 永田 佳大



「わあ、めだかが大きくなつたよ。  
放流したカワエビは、どこにいるの  
かな。」

休み時間になるたび、ビオトープ  
には大勢の子が集まり、さかんに池  
の中をのぞいています。小川の中  
に手を入れて、そつと石を動かしては、  
カワエビをさがしている子もいます。

## 学校ビオトープは今

稻羽西小学校長

清水 孝子

上戸自治会では昨年同様に「三世代ふれ  
あいイベント」、三井山登山で我が町を見  
る計画し十一月二日(日)に実施しました。  
午前十一時自治会長を先頭に二百数名が  
春日神社出発、今回参加者はまだ見ぬ子か  
ら八十八才まで(妊婦さんも参加)三井山  
山頂をめざしました。私は最後尾で登りま  
した。

途中で昨年家内とこの山にきた時に拾つ  
たどんぐりを自宅で育てた苗木を植えました。  
又頂上近くで我が町を撮影しました。山頂  
に私が到着した時には皆さん和気藹々と  
お弁当を食べて見えました。私は最後尾で登りま  
した。



写真に我が家、写っていますか…?

うと山頂で穴掘りをしていたら、近くにい  
た人がすづめ蜂の巣が有るよと教えて下さ  
いましたので慌てて別の場所に変更しました。  
(くわばら、くわばら)  
食事後しばらくすると、小雨が降つてき  
たため急いで全員で帰路につきました。本  
日は我が町をゆっくり見ることは出来ませ  
んでしたが皆さんが世代を超えて同じ目的  
で行動できたので、この企画は成功だった  
と思います。最後に自治会役員、各種団体  
の皆様の協力で無事に行事が出来たことに  
感謝いたします。



## 三井山登山

上戸町三世代  
ふれあいイベント上戸町自治会書記  
奥村 浩一

## 歩いて動いて 脳を活性化しよう!

〈介護を予防する工夫〉

### バランス感覚をめがけて 転倒を予防しよう

せっかくの運動も、つまずいて転んだりして大変です。実際、転倒によるけがが原因で寝たきりになったり、そこから痴ほうに進むケースも数多くあります。日ごろから体のバランスを鍛えておきましょう。



### 3分バランス

- ① 姿勢をまっすぐにして立ちます。
- ② 片足を床からゆっくり離し、片足だけで立ちます。
- ③ 10数えたら、足を下ろします。
- ④ これを左右交互に2回ずつ繰り返します。  
※よろけたときにけがをしないよう、まわりに危険なものがない場所で行いましょう



多くの人々との  
交わりの中で

主任児童委員になつて、児童虐待に関する研修や、小学校の運動会、卒業式、授業参観、保育所の入退所式、夏祭りまで、さらに養護施設や老人ホームの見学等々数多くの体験をさせていただいております。女の仕事というものはきりがなく、家事などに追われながらですが、日常生活とは違う自分を置くことで見えてくるものが、たくさんあります。

老人ホームで、黙々とご飯を食べさせてもらつている方々を見ると、どんな人生を送ってきたのだろう、児童館で若いお母さんと走り回る子どもを見ながら、どんな大人

になつていくのだろう、どの人も、多くの悲しみや苦しみささやかな喜びを抱えながら、生きて来られたのだろうし、これからも生きていかなくてはならないのだ、という思いが頭をよぎります。

人は受けとめてくれるやさしい手があれば生きていけるし、立ち直ることができると、先日ヘルパーの方が話しておられました。

たくさんの方々のおかげで、自分があるのだという感謝の心を常に忘れないで、暮らしをつけております。

主任兒童委員  
安田啓子

所に魚を仕込んでゐる。」  
しばらく服を干し、乾かしていると、  
数人の高校生が自転車に乗りながら、  
川に向かつて、ペットボトルとお菓子の袋を捨てて行つたのだ。今まで、  
ネコの死体や、水中・川岸のゴミ山などを見たが、かわいそとか、汚

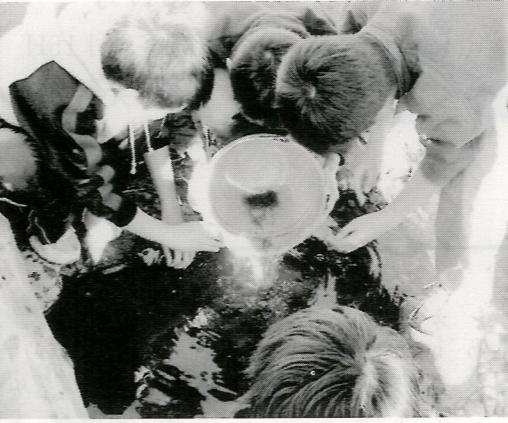
僕の釣り竿は二つと軽い衝撃があり、竿が、グンッと立くなり、僕は、「釣れる!」と心中で思った。竿が、グンッと立くなり、僕は、「釣れる!」と心の中で思った。二郎に水が入って腐った物)だつた。そして、僕は腹が立ちそれをまた川に投げようとした。しかし、捨てたら川が汚れると思い、近くの公園(?)のゴミ箱に捨てた。しばらく釣っていると、僕のルアーラーが水中の何かに引っ掛けてしまつた。僕は糸が切れたり、今ルアーラーを魚が食べてはいけないと思い、ゴリグルを付けて水中に潜つてみると、水中には、ビニール袋・釣り糸・ペットボトル・ポロ布、そして、車のボンネットやバンパー・タイヤまで沈んでいた。一、二度浮いて、ライシンをたどり、ルアーを無事回収し、浮いてから、僕は友達に言った。「水中中、本当汚ねエ!よくこんな所に魚が生息してゐるで。」

事にならなか  
まず僕達は釣り場に着くと、釣り竿などの準備を始め。すると、茂みの中には、「ンビ」の袋や、自転車、弁当のパック、釣り糸が散乱していた。そして僕達は、変な匂いに気付き、「何か臭くないか?」と話しながら振り返ると、ナント、「ギヤー。」と叫び逃げた。

別のポイントに着いて釣り始めるといふと、僕の内2年でコソソと長い衝撃が走る。

# 平成十五年度 市民憲章最優秀作文 『ごみを捨てた後』 稲羽中学校一年 岩井 虹

岩井虎史



まさにビオトープは 全校の注目  
の的なのです。  
ここは、たった半年前まで、雑草が生い茂り、日当たりが悪くて、忘れ去られたような場所でした。しかし、生き物のすみかになる小川、勢いよく流れる滝、芝生が植えられた土手が完成し、見事に大変身を遂げました。土曜日や日曜日に、総人數千五百人の力を合わせて完成したビオトープ。石運び、毛布しき、土入れ、形づくり…。  
地域の方と協力していく中で、学校のために真剣に働く人、今までの経験を生かし次々とアイデアを出していく人の姿を見て、僕は驚きました。ボランティアで働く心の大切さを学びました。  
ビオトープを守り、みんながよ

り自然や環境に関心をもつことが  
できるように、「生命の森」委員  
会ができました。卒業するまでに  
自分の力を少しでも役立てたいと  
考えていた僕は、さつそく立候補  
しました。この委員会は、植物を  
観察するチーム・地上の生き物を  
調べるチーム・水の中に水生植物  
を植えたり魚を放流したりするチ  
ームに分かれています。植物チ  
ームは、フユイチゴを植えました。  
地上の生き物チームは鳥が来るよ  
うにエサを用意しています。水の  
中の生き物チームは、スジエビと  
ヌカエビを放流しました。ビオトープ  
に集まってきた生き物を、全  
校放送で紹介したり、いつも同じ  
場所から写真をとり、ビオトープ  
の移り変わりを記録に残したりす

僕は、この活動を通して、今まで全く気にもとめなかつた生き物の仕事も大切なる役目です。最近の様子では、ノゲン、スズメノカタビラ、ツメクサなど春を呼ぶ草が石の間からのぞいています。ナミテントウ、ミミズは物かげで冬眠中です。

る仕事を大切に役目です。最近の  
様子では、ノゲン、スズメノカタ  
ビラ、ツメクサなど春を呼ぶ草が  
石の間からのぞいています。ナミ  
テントウ、ミニズは物かげで冬眠  
中です。

僕は、この活動を通して、今まで  
全く気にもとめなかつた生き物  
をじっくりと観察することが樂し  
くなつてきました。そして、どん

A black and white photograph showing a group of approximately ten people, mostly young boys and men, gathered around a large, rectangular outdoor tub filled with water. They are all bent over, scrubbing laundry by hand. The scene is set outdoors, with a simple wooden structure visible in the background.



「さあたまは一金と、金と金と金」としか考えていないくて、「必ず」と言つていいほど思れてしまうのだった。僕は鈴木君ほど進んでやる事が、あまり無いので、自分で中で、これだけは、というある決まりを作つてある。

一 「ゴミを捨てない

二 根掛りルアーも回収

三 キヤッチ＆リリース

この三つをいつも心掛けて釣りをしていく。僕は、「これらの事を今以上に守ろうと思つ。

「ゴミを捨てたあと、川は、大変な事になる。世の中、「親のした事、子が真似る」というように、一人がやれば、又一人、又一人と、とても多くの人が「ゴミを捨てて行くようになる。捨てた後の「ゴミは、腐敗した」「山となり、自然を壊していく。

ところで皆さんは好きだろうか? 例えばその辺の川の鯉に木の実を投げてやると鯉は工サと間違えて食べてしまう。もし、木の実が有害「ゴミだつたら」という事をよく考えて欲しいと思つ。

「何やつとん。早よ帰ろ。」  
と声をかけると、  
「「」拾つじる。」  
と返って来た。そう、鈴木君は、  
釣りに行く時は、必ず「」袋を持  
つて行き、必ず自分の釣つていた  
辺りの「」を拾つてから帰る偉い  
奴なのだ。僕も、鈴木君を見習い、  
ゴミ袋を持って行こうといつも思  
うのだが、出る時は「約ひ約ひ

◎  
稻羽中学校一年  
岩井 虎史

所に急いでいるので、  
しばらく服を干し、乾かしていると  
数人の高校生が自転車に乗りながら  
川に向かって、ペットボトルとお菓子の袋を捨てて行ったのだ。今まで  
ネコの死体や、水中・川岸のゴミ山などを見たが、かわいそうとか、汚

僕の釣り竿は二三本と軽い衝撃があつた。竿が、グンッと弓なりになり僕は、「釣れる!」と心中で思い糸を巻き上げると、しぼり汁(ビニールに水が入って腐った物)だつた。そして、僕は腹が立ちそれをまた川に投げようとした。しかし、捨てたら川が汚れると思い、近くの公園(?)のゴミ箱に捨てた。しばらく釣っていると、僕のルアーラーが水中の何かに引っ掛けてしまつた。僕は糸が切れたり、今ルアーを魚が食べてはいけないと思い、コングルを付けて水中に潜つてみると水中には、ビニール袋・釣り糸・ペットボトル・ポロ布、そして、車のボンネットやバンパー・タイヤまで沈んでいた。一、二度浮いて、ライシンをたどり、ルアーを無事回収し、浮いてから、僕は友達に言つた。「水の中、本当汚ねエ!よくこんな所に魚ら生いだれるで。」

「さあたまは一金と、金と金と金」としか考えていないくて、「必ず」と言つていいほど思れてしまうのだった。僕は鈴木君ほど進んでやる事が、あまり無いので、自分で中で、これだけは、というある決まりを作つてある。

一 「ゴミを捨てない

二 根掛りルアーも回収

三 キヤッチ＆リリース

この三つをいつも心掛けて釣りをしていく。僕は、「これらの事を今以上に守ろうと思つ。

「ゴミを捨てたあと、川は、大変な事になる。世の中、「親のした事、子が真似る」というように、一人がやれば、又一人、又一人と、とても多くの人が「ゴミを捨てて行くようになる。捨てた後の「ゴミは、腐敗した」「山となり、自然を壊していく。

ところで皆さん魚は好きだろうか? 例えばその辺の川の鯉に木の実を投げてやると鯉は工サと間違えて食べてしまう。もし、木の実が有害「ゴミだつたら、という事をよく考えて欲しいと思つ。